



「宮崎県の子どもの貧困に関する連携推進協議会」
の取り組み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 宮崎大学教育学研究科教職大学院 公開日: 2023-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹内, 元 メールアドレス: 所属: 宮崎大学
URL	https://doi.org/10.34481/0002000011

「宮崎県の子どもの貧困に関する連携推進協議会」の取り組み

竹内 元ⁱ

要旨

宮崎大学教育学部、宮崎日日新聞社、宮崎県、宮崎県児童福祉施設協議会、NPO 法人 Swing-By で構成している「宮崎県の子どもの貧困に関する連絡推進協議会」は、「みやざき子ども未来奨学金」を創設し、6名の奨学生に奨学金を給付している。さらに、宮崎県の委託を受けて、人材育成事業等を行うとともに、NPO 法人 Swing-By 等と「子ども支援連携協力に関する協定」を締結し、学習コンテンツを提供するとともに、支援者等を対象とした研修を実施してきた。本報告では、これまでの取り組みを概観し、今後の展望と課題を示す。

1. 給付型奨学金「みやざき子ども未来奨学金」の創設

「宮崎県の子どもの貧困に関する連絡推進協議会」は、2016年12月8日に設立された。宮崎大学教育学部、宮崎日日新聞社、宮崎県、宮崎県児童福祉施設協議会、NPO 法人 Swing-By で構成されている。「宮崎県の子どもの貧困に関する連絡推進協議会」の会長は、本学部学部長が担い、本学部附属教育協働開発センターが事務局を務めている。「宮崎県の子どもの貧困に関する連絡推進協議会」は、児童養護施設や里親家庭などの社会的養護のもとで育つ子どもたちの、大学や専門学校への進学をサポートする給付型奨学金「みやざき子ども未来奨学金」を創設している。「みやざき子ども未来奨学金」は、中学3年生と高校2年生を対象にしており、予約型奨学金である。

奨学生は、現在、終了者を含めて6名であり、予約奨学生が3名いる。「みやざき子ども未来奨学金」の事務手続きは、2022年度より、NPO 法人 Swing-By が担い、奨学生にコーチングを行うなど、新たなサポート体制の整備を推進している。

2. みやざき「子どもの貧困と教育」フォーラムからみやざき子どもの貧困人材育成事業へ

本学部では、宮崎日日新聞や宮崎県、NPO 法人 Swing-By と協働して、みやざき「子どもの貧困と教育」フォーラムを下記のように継続して主催してきた。また、2017年より宮崎県の委託を受けて、人材育成事業等を行ってきた。

- ① みやざき「子どもの貧困と教育」フォーラム 2015
日時：2015年12月23日、参加人数：180名
テーマ：スクールソーシャルワーカーから見えた「子どもの貧困」
- ② みやざき「子どもの貧困と教育」フォーラム 2016
日時：2016年12月18日、参加人数：250名
テーマ：自立支援の展望と課題

ⁱ 宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター

- ③ みやざき「子どもの貧困と教育」フォーラム 2017
日時：2017年12月17日、参加人数：200名
テーマ：「すべての子ども」を大切にする子どもの貧困対策
- ④ みやざき「子どもの貧困と教育」フォーラム 2018
日時：2018年12月16日、参加人数：136名
テーマ：社会的養護下における子どもたちに対する大学進学支援
- ⑤ 平成29年度みやざき子ども未来応援コーディネーター養成研修
日時：2017年12月23日～2018年3月6日、参加人数：150名
- ⑥ 平成30年度みやざき子ども未来応援コーディネーター養成研修
日時：2019年1月26日～2019年3月17日、参加人数：231名
- ⑦ 令和元年度みやざき子どもの未来応援コーディネータースキルアップ研修
日時：2020年1月26日～2020年2月16日、参加人数：67名
*新型コロナウイルス感染症対策により研修（3月7日・8日申込者数：80名）を中止した。
- ⑧ 令和2年度みやざき子どもの貧困対策人材育成事業
日時：2021年2月7日から3月7日（5日間）、参加者述べ人数：548名
2021年度より、みやざき子どもの貧困人材育成は、NPO法人 Swing-By が受託し、本学部教員が研修カリキュラムの構成と講師等を担う形となっている。

3. 「子ども支援連携協力に関する協定」の締結

2019年7月16日（火）に、本学部は宮崎市及びNPO法人 Swing-By と「子ども支援連携協力に関する協定」を締結した。

連携協定は、本学部の教員の持つ知識や研究の成果を活用して宮崎市の子どもたちの学習環境の整備に協力するものである。生活保護世帯や生活困窮世帯の子どもたちには、学習する場所がないだけでなく、学習する行為そのものに課題があり、指導者側に工夫や学びが必要となる。また、保護者のケアが必要となる場合もあり、ケース会議を通して多職種協働が求められることもある。本学部では学習コンテンツを提供するとともに、支援者等を対象とした研修を実施してきた。

4. 今後の展望と課題

本学部では、「子どもの貧困と教育」研究ユニットを立ち上げ、『奨学生への指導手引』（湯田拓史、鉦脈社、2022年）というブックレットをNPO法人 Swing-By と協働して出版し、教員研修や大学の講義、高校の出前講座、保護者向け講座、福祉専門家向け講座等で使用してきた。さらに、みやざき子どもの貧困人材育成事業を通して、宮崎県内の社会福祉協議会等との連携も進み、本学部の教員が学習支援のアドバイザーのほか、市町村の子どもの貧困対策整備計画策定委員会や宮崎県子どもの貧困対策協議会の委員等も担ってきた。

宮崎県内では、子ども食堂や学習支援等にに取り組む団体も急激に増えており、本学部には研修機能だけでなく、シンクタンク機能として調査研究・データ解析の役割も期待されている。教育協働開発センターが培ってきた「協働」を発展させ、新たな試みを構築することが課題となっている。